

東洋炭素株式会社

2025年12月期第2四半期 決算説明資料

2025年8月21日

東洋炭素株式会社

2025年12月期第2四半期 決算概要

1. 2025年12月期第2四半期 業績

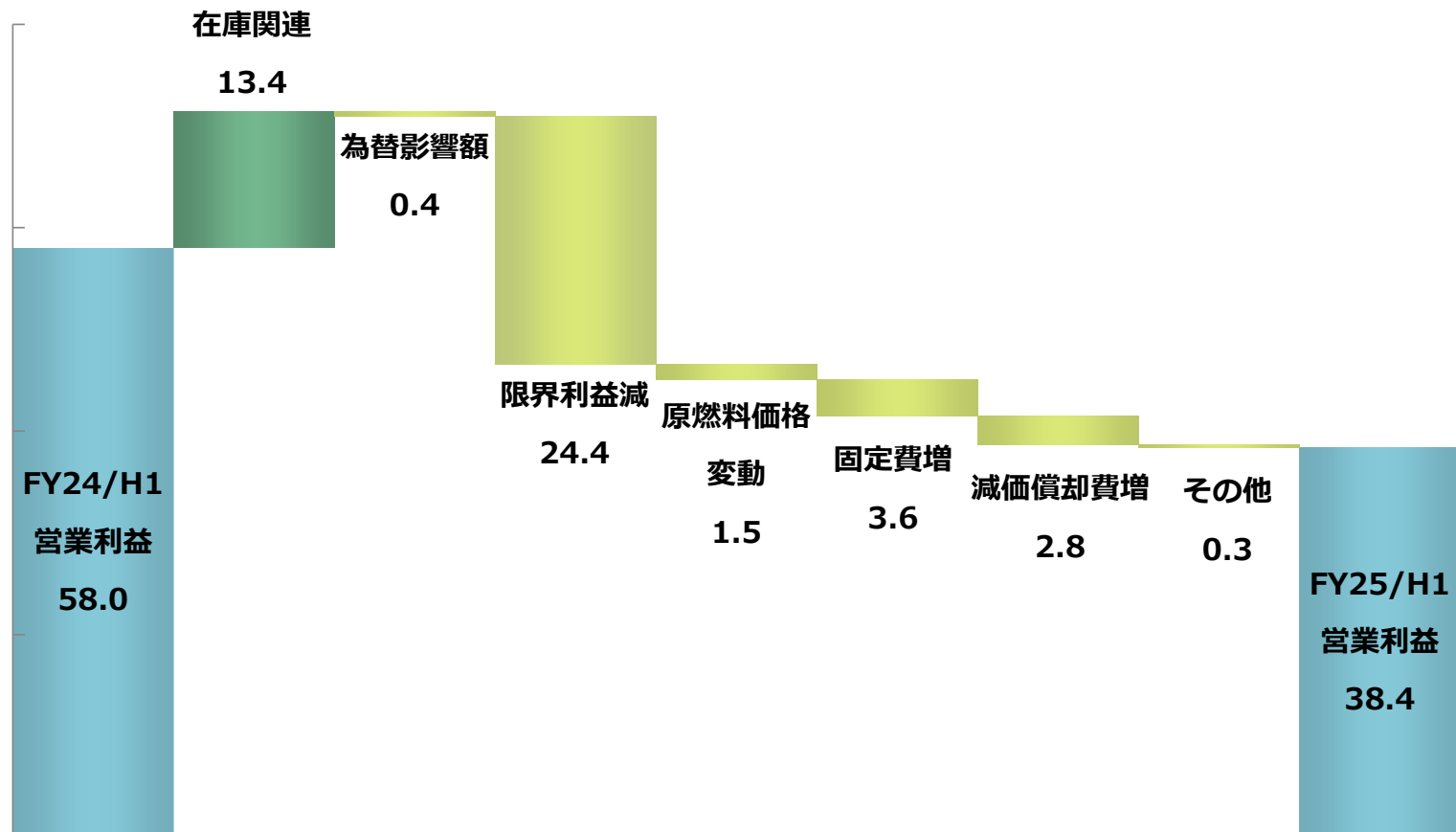
	FY2024/H1	FY2025/H1			
(単位：百万円)		(F)	(A)	前年同期比	予想比
売上高	26,284	24,000	22,980	▲ 3,303 / ▲ 12.6 %	▲ 1,019 / ▲ 4.2 %
営業利益	5,808	4,000	3,840	▲ 1,967 / ▲ 33.9 %	▲ 159 / ▲ 4.0 %
(売上高営業利益率)	22.1%	16.7%	16.7%		
経常利益	6,994	3,900	3,789	▲ 3,205 / ▲ 45.8 %	▲ 110 / ▲ 2.8 %
(売上高経常利益率)	26.6%	16.3%	16.5%		
親会社株主に 帰属する 中間純利益	5,156	2,800	2,681	▲ 2,475 / ▲ 48.0 %	▲ 118 / ▲ 4.2 %
1株当たり 中間純利益	245円89銭	133円51銭	127円85銭		
為替レート	152.3円/\$ 164.6円/€ 21.1円/人民元	145円/\$ 154円/€ 19.5円/人民元	148.6円/\$ 162.2円/€ 20.5円/人民元		

2. 営業利益増減要因

(2024年12月期H1 vs 2025年12月期H1)

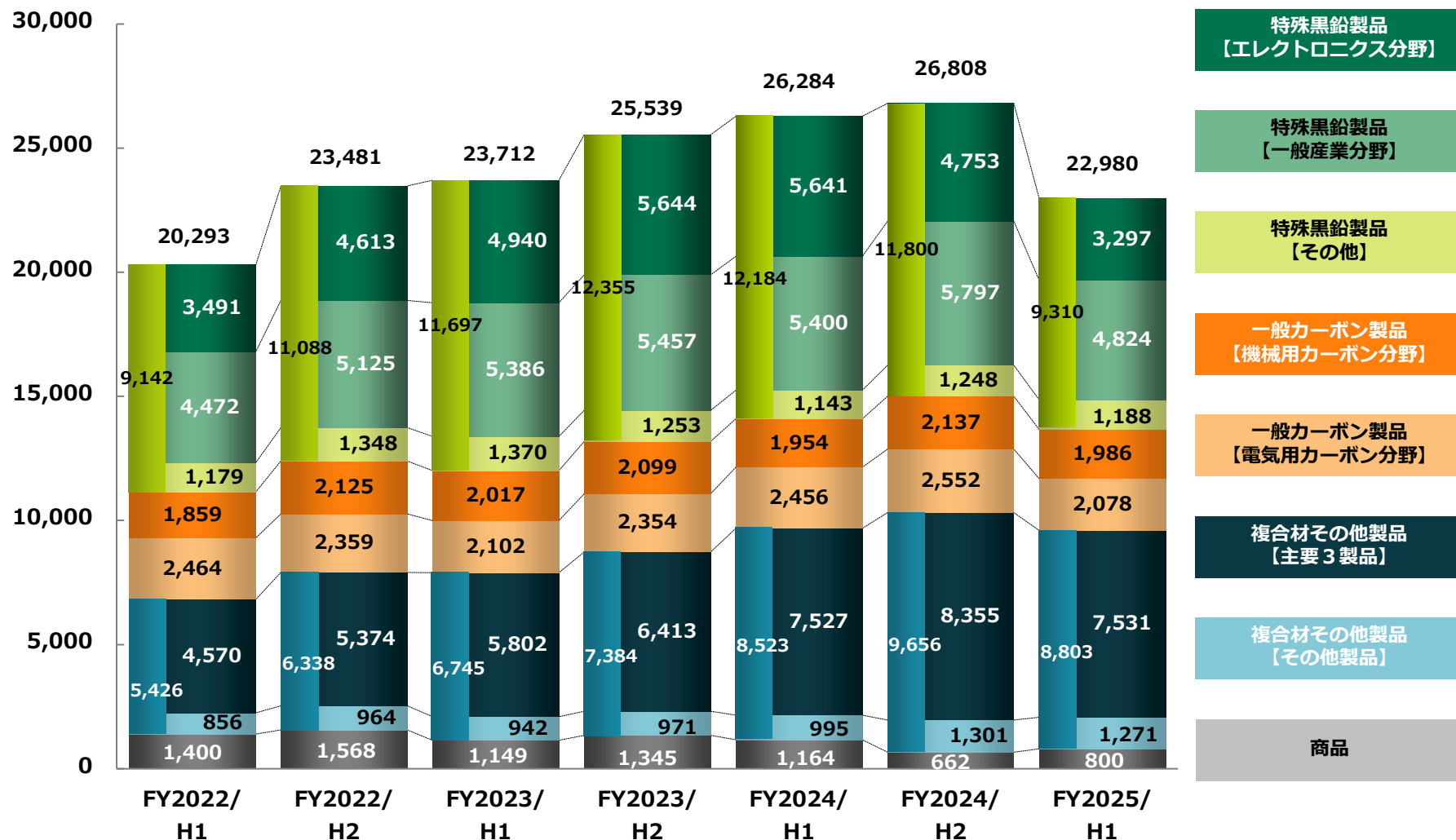
- ✓ 設備更新時の一部設備停止に備えた計画生産や在庫未実現利益により在庫関連プラスも、限界利益減（数量・製品構成）と固定費・減価償却費増加で▲33.9%

(単位：億円)



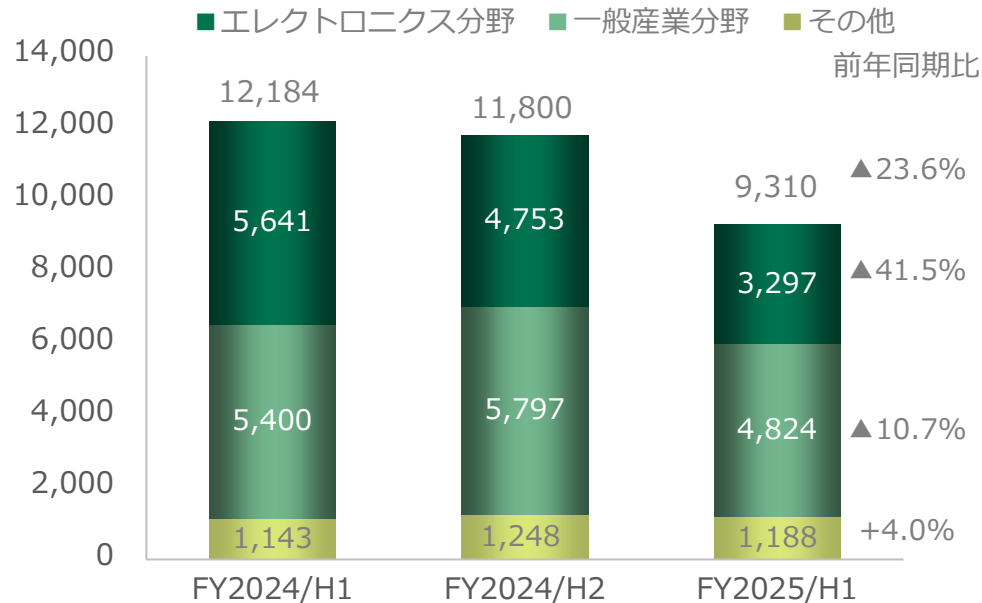
3. 製品・分野別売上高

(単位：百万円)

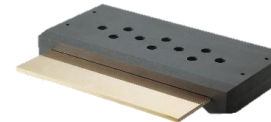


3. 製品・分野別売上高 特殊黒鉛製品

(単位：百万円)



連続 casting 用ダイス



単結晶シリコン製造装置



SiC結晶成長部材



放電加工用電極

【エレクトロニクス分野】

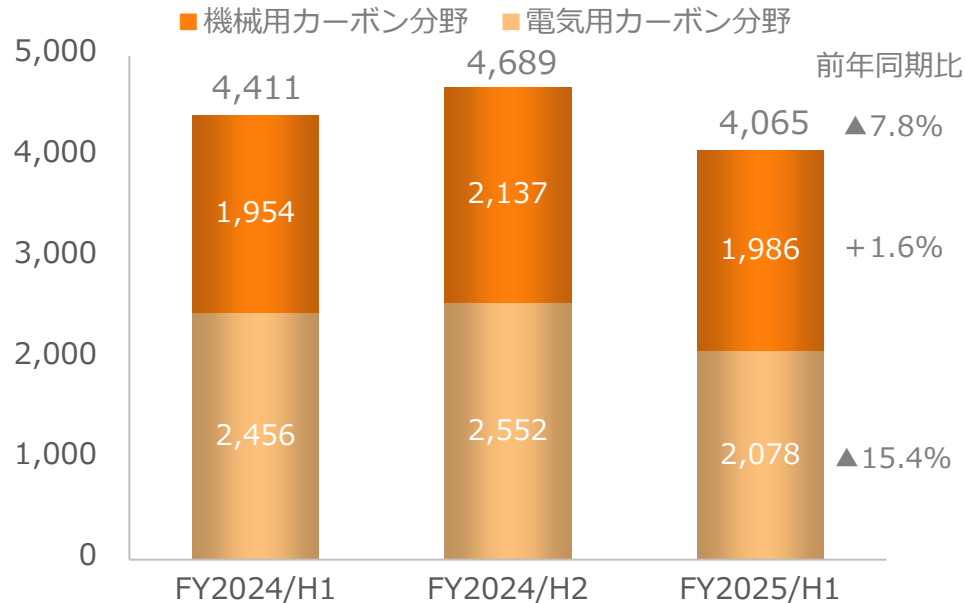
- ・単結晶シリコン製造用は、ウエハー在庫の調整が継続し、前年同期比大幅減。
- ・化合物半導体製造用は、SiCウエハー向けが、EV市場鈍化の影響による前下期からの調整継続で、前年同期比大幅減。
- ・太陽電池製造用は、昨年後半以降中国市場の減速感が一段と強まり、前年同期比大幅減。

【一般産業分野】

- ・自動車関連産業の稼働や企業の設備投資の軟調さから、放電加工電極が減少、連続 casting 用や工業炉用等の冶金用も軟調に推移し前年同期比減。

3. 製品・分野別売上高 一般カーボン製品

(単位：百万円)



【機械用カーボン分野】

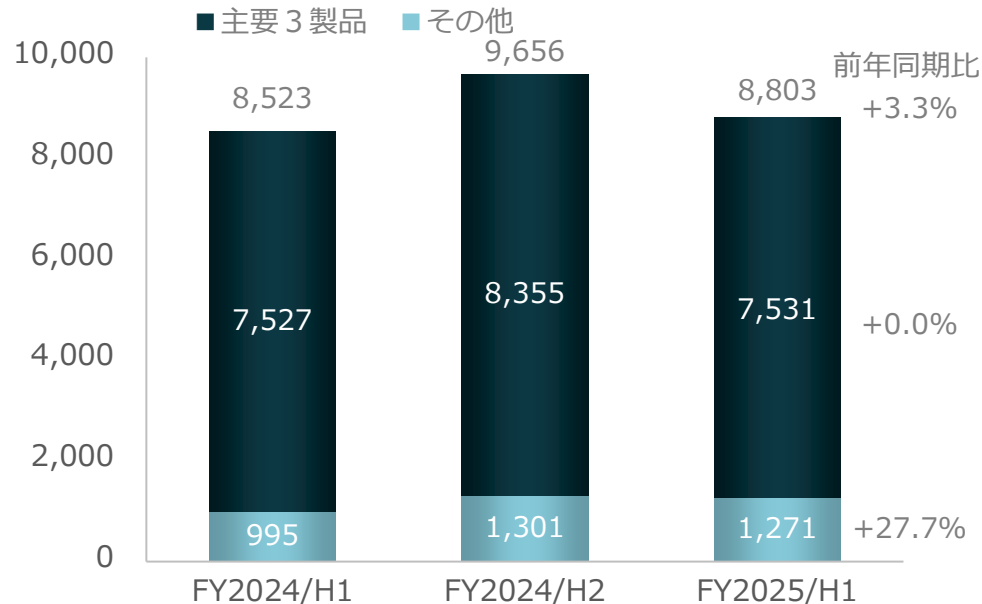
- ・ 軸受やパンタグラフ用すり板の需要堅調で、前年同期並みの水準。

【電気用カーボン分野】

- ・ 家電・電動工具向け小型モーター用は、関税による駆け込み需要の反動等により前年同期比減。
- ・ 大型モーター用は、風力発電をはじめ産業機械向けの用途開拓に注力。

3. 製品・分野別売上高 複合材その他製品

(単位：百万円)



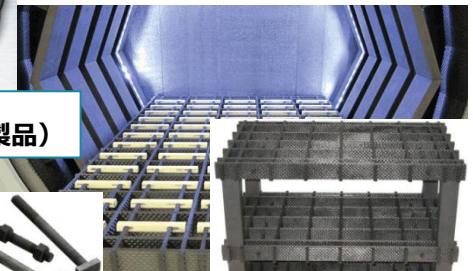
黒鉛シート製品



MOCVDサセプター
(SiCコーティング黒鉛製品)



ボルト・ナット
(C/Cコンポジット製品)



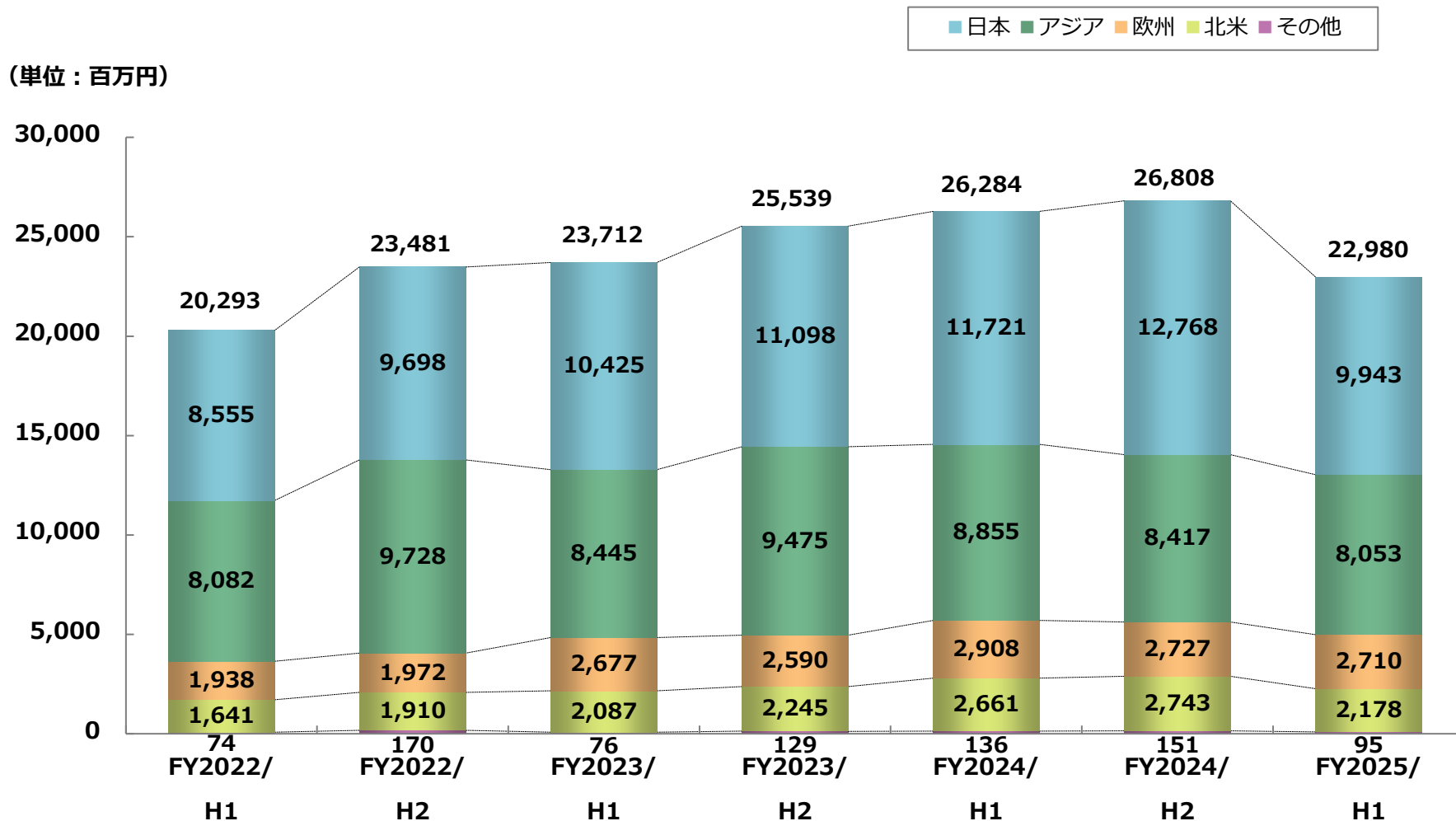
三段トレイ
(C/Cコンポジット製品)

【主要3製品】

- ・ SiCコーティング黒鉛製品は、SiCエピタキシャル用途が前年同期比大幅減も、Siエピタキシャル用途等の高い需要により、前年同期比増。
- ・ C/Cコンポジット製品は、工業炉用が減少し前年同期比減。
- ・ 黒鉛シート製品は、自動車用・半導体用・冶金用は底堅く推移したものの、特殊用途の減少により前年同期比減。

4. 地域別売上高

✓ 影響度の差はあれど、半導体用・冶金用・カーボンブラシ製品における
需要減の影響は、各地域に波及



5. 2025年12月期第2四半期

連結貸借対照表および連結キャッシュ・フロー計算書

連結貸借対照表	(単位：百万円)			連結キャッシュ・フロー 計算書	(単位：百万円)	
	2024/6月末	2024/12月末	2025/6月末		FY2024/H1	FY2025/H1
資産合計	104,204	113,190	109,622	現金及び現金同等物 の期首残高	13,601	14,652
受取手形及び売掛金	18,630	17,609	15,033	現金及び現金同等物 の増減額	▲ 758	▲ 4,699
棚卸資産	24,448	26,817	28,847	現金及び現金同等物 の中間期末残高	12,843	9,953
有形固定資産	37,415	42,863	45,448	営業活動によるCF	4,210	2,809
負債・純資産合計	104,204	113,190	109,622	投資活動によるCF	▲ 3,113	▲ 7,826
有利子負債	-	-	3,612	財務活動によるCF	▲ 2,413	456
資本金	7,947	7,947	7,947			
純資産	89,736	94,205	92,473			
自己資本比率	86.1%	83.2%	84.3%			

2025年12月期業績予想

通期業績予想修正の前提となる市場環境認識

✓ 半導体市場の調整長期化

■ シリコン半導体用途

- ・最先端品向けの需要は一定程度あるものの、市場全体としてウエハー在庫の調整継続で、期初計画より需要減
- ・市場回復時期は、期初想定 of FY2025 下期より後ズレの見込み
 - 特殊黒鉛製品エレクトロニクス分野：Siウエハー製造部材
 - 複合材SiCコーティング黒鉛製品：Siエピタキシャル装置部材

■ SiC半導体用途

- ・EV市場の停滞に加え、ウエハーの在庫調整等により期初計画より需要減
- ・期初時点でFY2026後半と想定 of 市場回復時期については、注視要
- ・BEVのみならずxEVでの採用が進みつつあり、自動車の電装化進展やエネルギー機器での採用拡大等、中長期的な市場成長の見方は変わらず
 - 特殊黒鉛製品エレクトロニクス分野：SiCウエハー製造部材
 - 複合材SiCコーティング黒鉛製品：SiCエピタキシャル装置部材

**新規用途開拓および既存用途深堀に注力し、用途構成のバランスをコントロール
加えて、人件費等の固定費抑制を実行し、市場の変化に確実に対応**

2. 2025年12月期業績予想

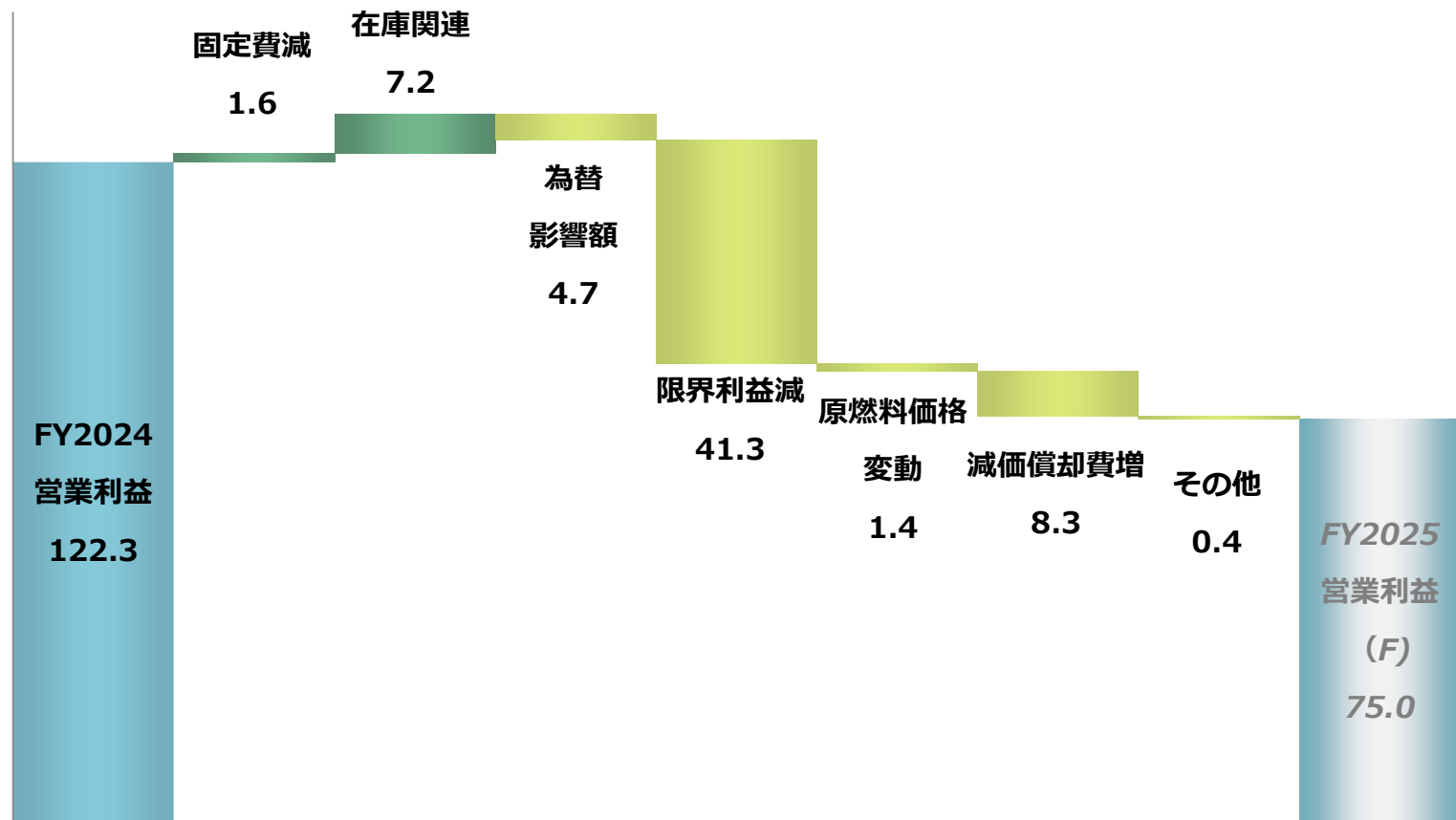
(単位：百万円)	FY2024			FY2025						
	内訳		前回 (F) *	今回 (F)	内訳		前期比		前回予想比	
売上高	53,093	H1	26,284	52,000	48,000	H1 (A)	22,980	▲ 5,093 / ▲ 9.6 %	▲ 4,000 / ▲ 7.7 %	
		H2	26,808			H2 (F)	25,019			
営業利益	12,238	H1	5,808	10,000	7,500	H1 (A)	3,840	▲ 4,738 / ▲ 38.7 %	▲ 2,500 / ▲ 25.0 %	
		H2	6,429			H2 (F)	3,659			
(売上高営業利益率)	23.1%			19.2%	15.6%					
経常利益	13,480	H1	6,994	9,800	7,000	H1 (A)	3,789	▲ 6,480 / ▲ 48.1 %	▲ 2,800 / ▲ 28.6 %	
		H2	6,485			H2 (F)	3,210			
(売上高経常利益率)	25.4%			18.8%	14.6%					
親会社株主に 帰属する 当期純利益	9,960	H1	5,156	7,000	5,000	H1 (A)	2,681	▲ 4,960 / ▲ 49.8 %	▲ 2,000 / ▲ 28.6 %	
		H2	4,803			H2 (F)	2,318			
1株当たり 当期純利益	474円95銭	H1	245円89銭	333円77銭	238円41銭	H1 (A)	127円85銭			
		H2	229円06銭			H2 (F)	110円56銭			
ROE	11.2%			7.3%	5.3%					
為替レート	151.6円/\$ 163.9円/€ 21.0円/人民元			145円/\$ 154円/€ 19.5円/人民元	(H2前提) 145円/\$ 154円/€ 19.5円/人民元					

* 2025年2月14日公表

3. 営業利益増減要因 (2024年12月期 vs 2025年12月期)

✓ 限界利益減（数量・製品構成）と減価償却費増により▲38.7%

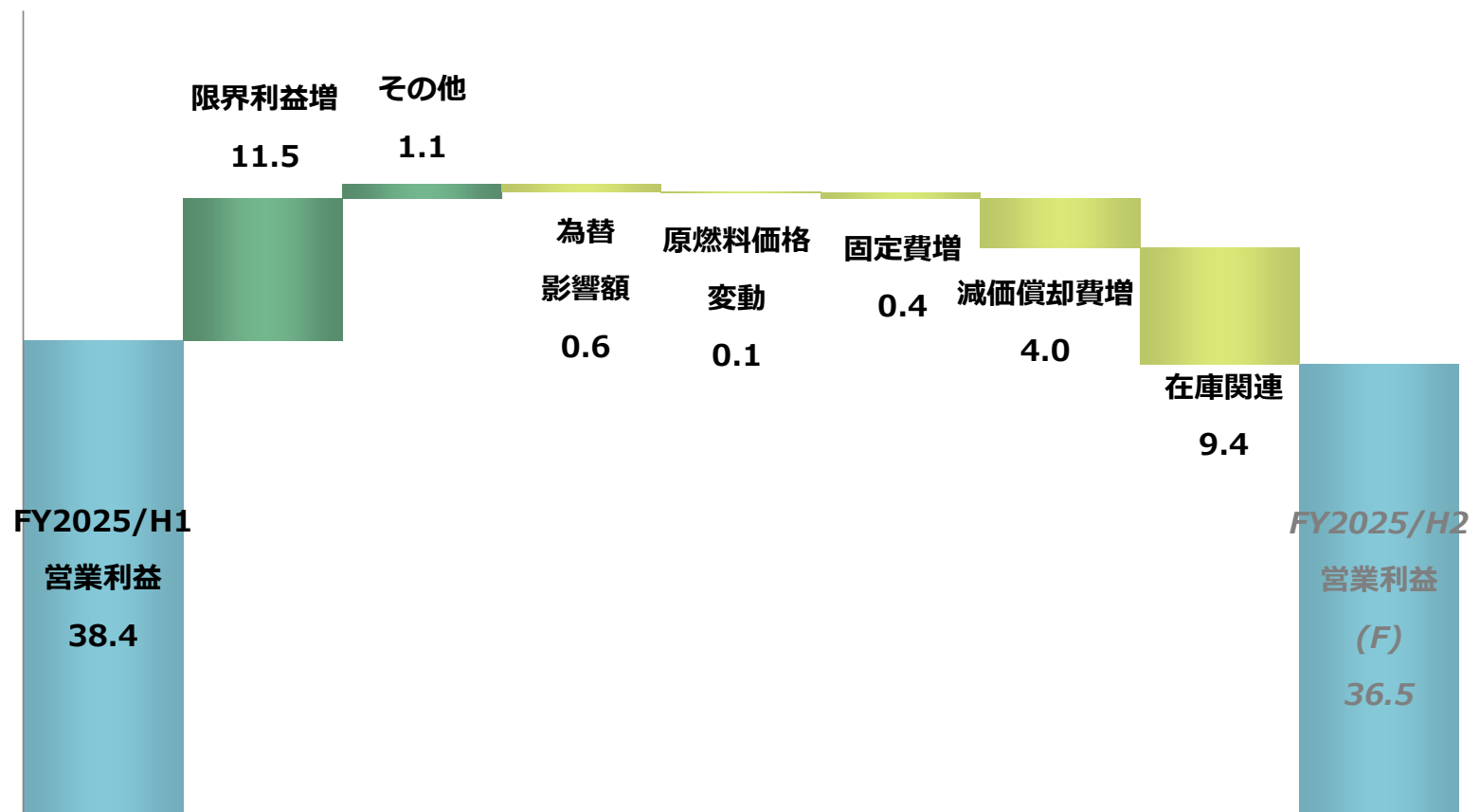
(単位：億円)



3. 営業利益増減要因 (2025年12月期H1 vs H2)

✓ 限界利益増も減価償却費や在庫の影響で▲4.7%

(単位：億円)



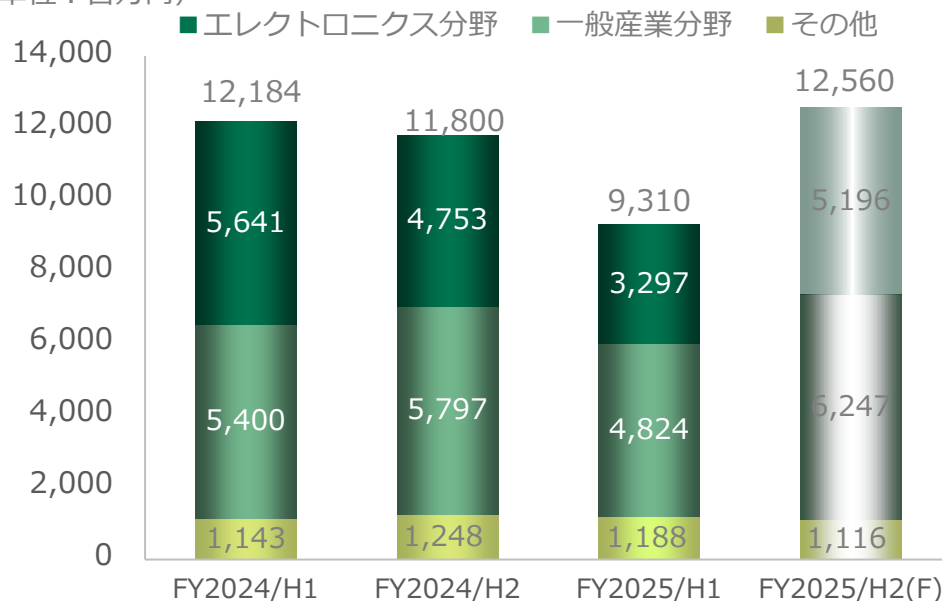
4. 製品・分野別売上高

製品・分野別 (単位：百万円)	FY2024			FY2025								
	H 1	H 2	通期	H 1	YoY	期初 予想比	H 2 (F)	YoY	期初 予想比	通期 (F)	YoY	期初 予想比
特殊黒鉛製品	12,184	11,800	23,985	9,310	▲23.6%	▲13.5%	12,560	+6.4%	▲1.2%	21,871	▲8.8%	▲6.8%
エレクトロニクス分野	5,641	4,753	10,394	3,297	▲41.5%	▲17.3%	5,196	+9.3%	▲5.7%	8,494	▲18.3%	▲10.6%
一般産業分野	5,400	5,797	11,198	4,824	▲10.7%	▲14.9%	6,247	+7.8%	+3.6%	11,072	▲1.1%	▲5.4%
その他	1,143	1,248	2,391	1,188	+4.0%	+7.6%	1,116	▲10.6%	▲4.5%	2,304	▲3.6%	+1.4%
一般カーボン製品 (機械用カーボン分野)	1,954	2,137	4,092	1,986	+1.6%	+9.7%	1,891	▲11.5%	▲6.0%	3,878	▲5.2%	+1.4%
一般カーボン製品 (電気用カーボン分野)	2,456	2,552	5,008	2,078	▲15.4%	▲11.2%	2,209	▲13.4%	▲15.2%	4,288	▲14.4%	▲13.3%
複合材その他製品	8,523	9,656	18,179	8,803	+3.3%	+10.9%	7,442	▲22.9%	▲23.1%	16,245	▲10.6%	▲7.8%
主要 3 製品	7,527	8,355	15,883	7,531	+0.0%	+9.7%	6,178	▲26.1%	▲27.4%	13,709	▲13.7%	▲10.8%
その他	995	1,301	2,296	1,271	+27.7%	+18.3%	1,264	▲2.8%	+8.5%	2,535	+10.4%	+13.2%
商品	1,164	662	1,827	800	▲31.2%	▲30.1%	915	+38.0%	▲8.5%	1,715	▲6.1%	▲20.0%
合計	26,284	26,808	53,093	22,980	▲12.6%	▲4.2%	25,019	▲6.7%	▲10.6%	48,000	▲9.6%	▲7.7%

4. 製品・分野別売上高 特殊黒鉛製品

製品・分野別 (単位：百万円)	FY2024			FY2025								
	H 1	H 2	通期	H 1	YoY	期初 予想比	H 2 (F)	YoY	期初 予想比	通期 (F)	YoY	期初 予想比
特殊黒鉛製品	12,184	11,800	23,985	9,310	▲23.6%	▲13.5%	12,560	+6.4%	▲1.2%	21,871	▲8.8%	▲6.8%
エレクトロニクス分野	5,641	4,753	10,394	3,297	▲41.5%	▲17.3%	5,196	+9.3%	▲5.7%	8,494	▲18.3%	▲10.6%
一般産業分野	5,400	5,797	11,198	4,824	▲10.7%	▲14.9%	6,247	+7.8%	+3.6%	11,072	▲1.1%	▲5.4%
その他	1,143	1,248	2,391	1,188	+4.0%	+7.6%	1,116	▲10.6%	▲4.5%	2,304	▲3.6%	+1.4%

(単位：百万円)



【エレクトロニクス分野】

- ・ 今下期の回復を見込んでいた単結晶シリコン製造用は、ウエハー在庫の調整継続で回復の足鈍く前期比減。
- ・ 化合物半導体製造用は、EV市場の低迷により期初計画より需要が減少し、前期比大幅減。
- ・ 太陽電池製造用は、市場での生産調整継続も、戦略的な選別受注を行っており、影響は極めて軽微。

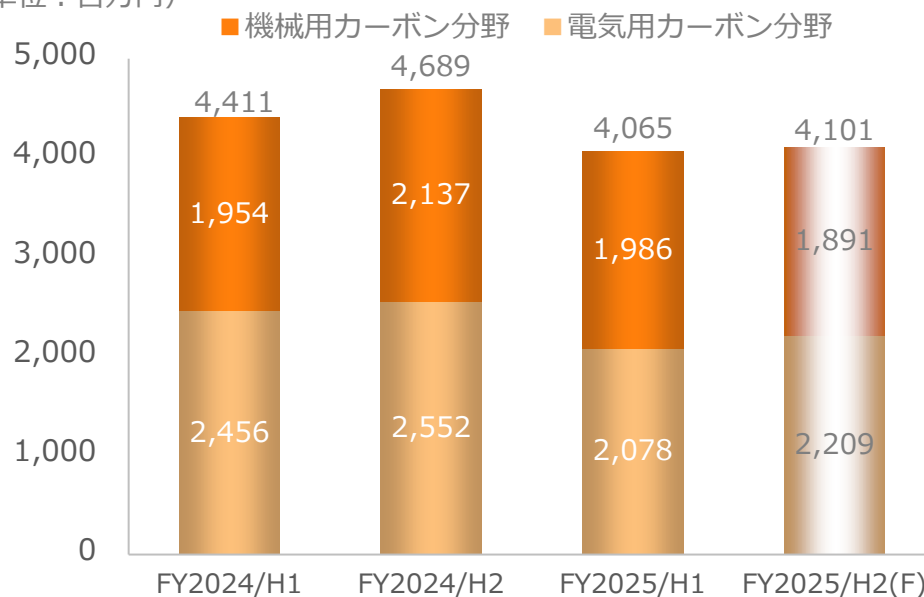
【一般産業分野】

- ・ 先行き不透明感はあるものの、工業炉等冶金用や放電加工電極等の需要は概ね安定。

4. 製品・分野別売上高 一般カーボン製品

製品・分野別 (単位：百万円)	FY2024			FY2025								
	H1	H2	通期	H1	YoY	期初 予想比	H2 (F)	YoY	期初 予想比	通期 (F)	YoY	期初 予想比
一般カーボン製品 (機械用カーボン分野)	1,954	2,137	4,092	1,986	+1.6%	+9.7%	1,891	▲11.5%	▲6.0%	3,878	▲5.2%	+1.4%
一般カーボン製品 (電気用カーボン分野)	2,456	2,552	5,008	2,078	▲15.4%	▲11.2%	2,209	▲13.4%	▲15.2%	4,288	▲14.4%	▲13.3%

(単位：百万円)



【機械用カーボン分野】

- 軸受・シールリング・パンタグラフ用すり板とも需要は堅調で、概ね安定した水準で推移。

【電気用カーボン分野】

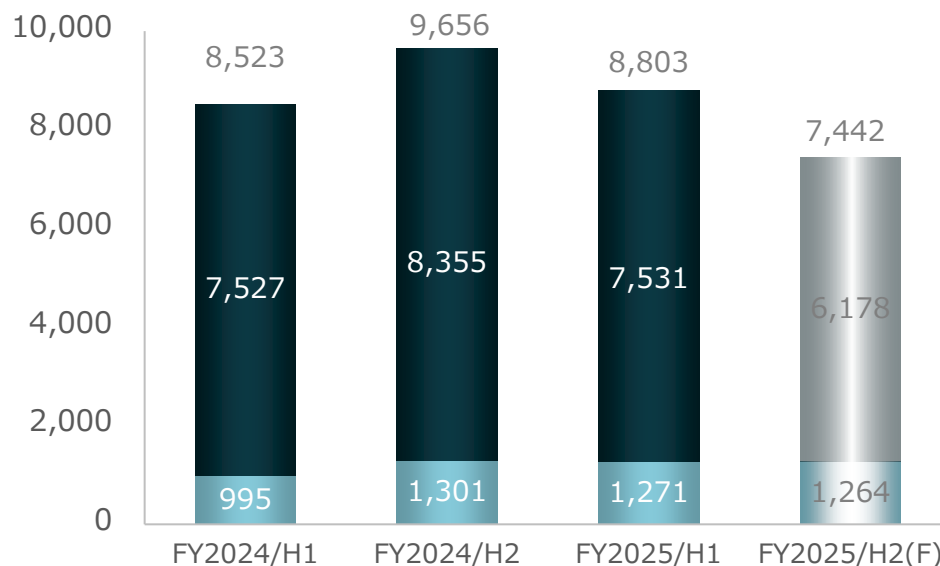
- 家電・電動工具向け小型モーター用は、下期も需要が伸び悩み、前期比減。

4. 製品・分野別売上高 複合材その他製品

製品・分野別 (単位：百万円)	FY2024			FY2025								
	H 1	H 2	通期	H 1	YoY	期初 予想比	H 2 (F)	YoY	期初 予想比	通期 (F)	YoY	期初 予想比
複合材その他製品	8,523	9,656	18,179	8,803	+3.3%	+10.9%	7,442	▲22.9%	▲23.1%	16,245	▲10.6%	▲7.8%
主要 3 製品	7,527	8,355	15,883	7,531	+0.0%	+9.7%	6,178	▲26.1%	▲27.4%	13,709	▲13.7%	▲10.8%
その他	995	1,301	2,296	1,271	+27.7%	+18.3%	1,264	▲2.8%	+8.5%	2,535	+10.4%	+13.2%

(単位：百万円)

■ 主要 3 製品 ■ その他



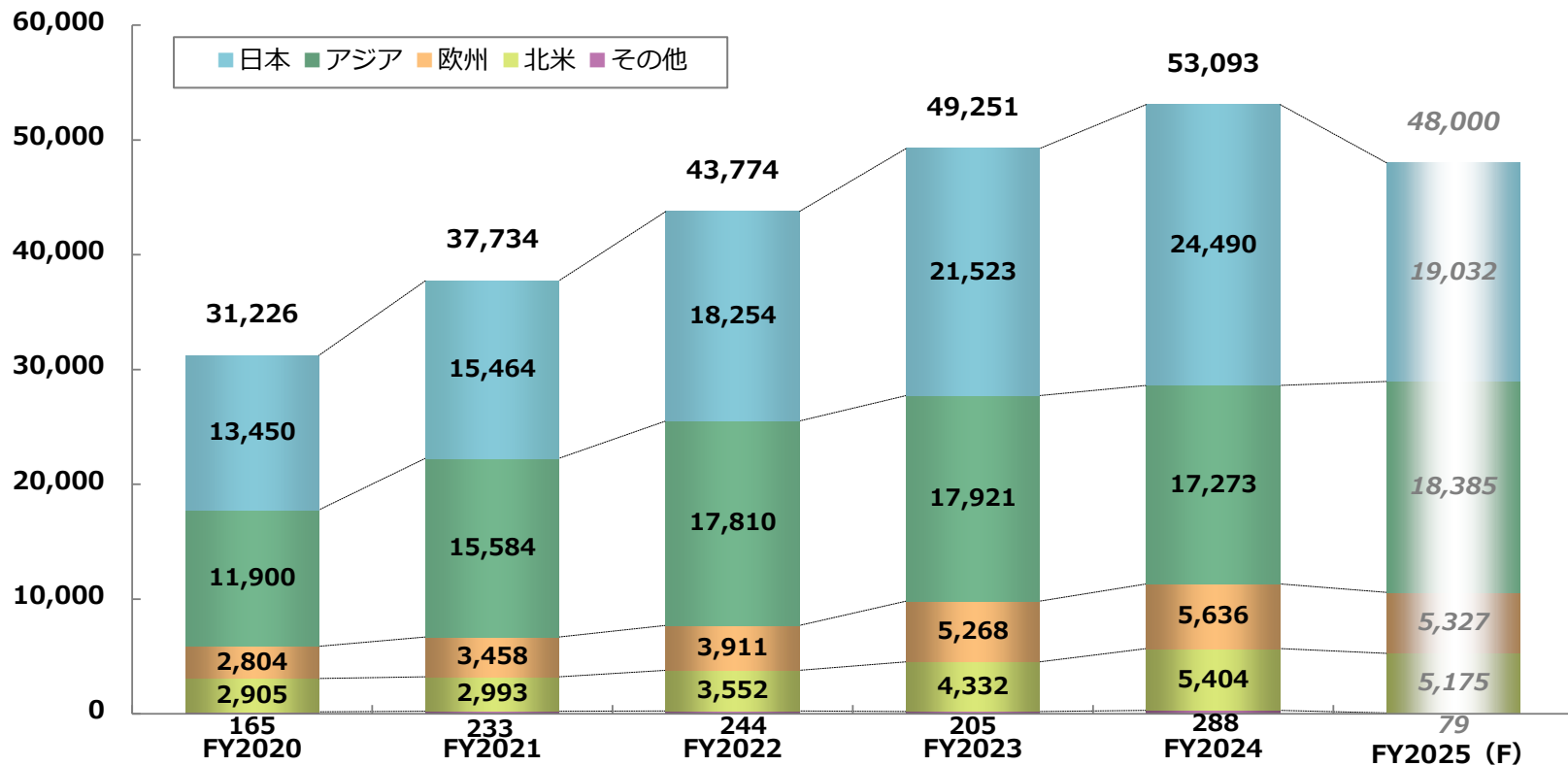
【主要 3 製品】

- ・ SiCコーティング黒鉛製品は前期比減。SiCエピタキシャル用途の下期需要は、市場調整の影響で期初計画より大幅ダウン。Siエピタキシャル用途は、在庫調整の影響等で下期需要が期初予想を下回るも、上期堅調で、前期比ではプラス。
- ・ C/Cコンポジット製品は、工業炉用が減少し前期比減。
- ・ 黒鉛シート製品は、自動車用・半導体用・冶金用ともに堅調ながら、一部用途剥落により前期比減。

5. 地域別売上高

✓ アジアはやや増加も、日本・北米・欧州が減少

(単位：百万円)

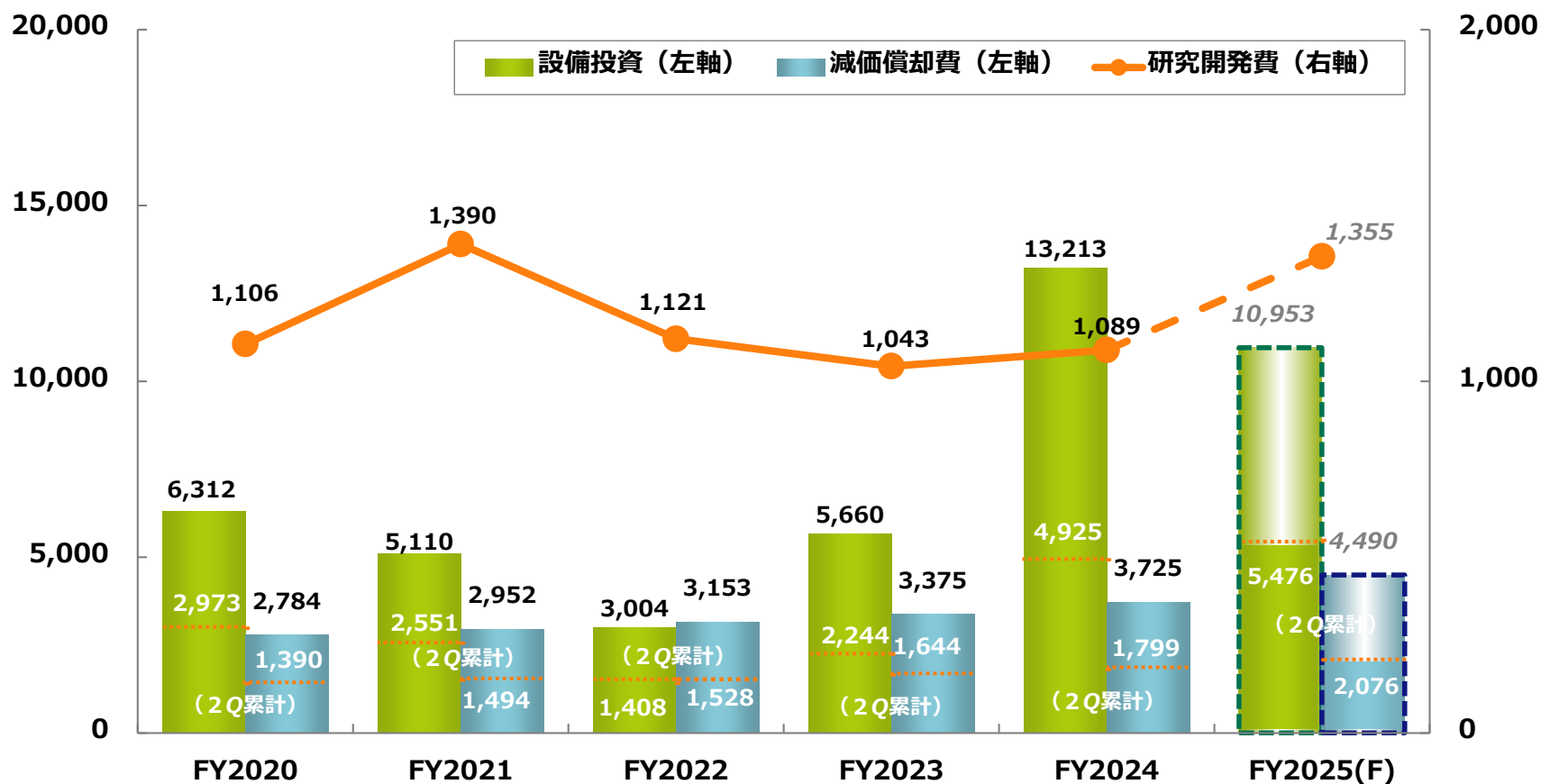


6. 設備投資・減価償却費・研究開発費

✓ 高純度化やコーティング（SiC・TaC）等の設備投資は概ね計画どおり進捗

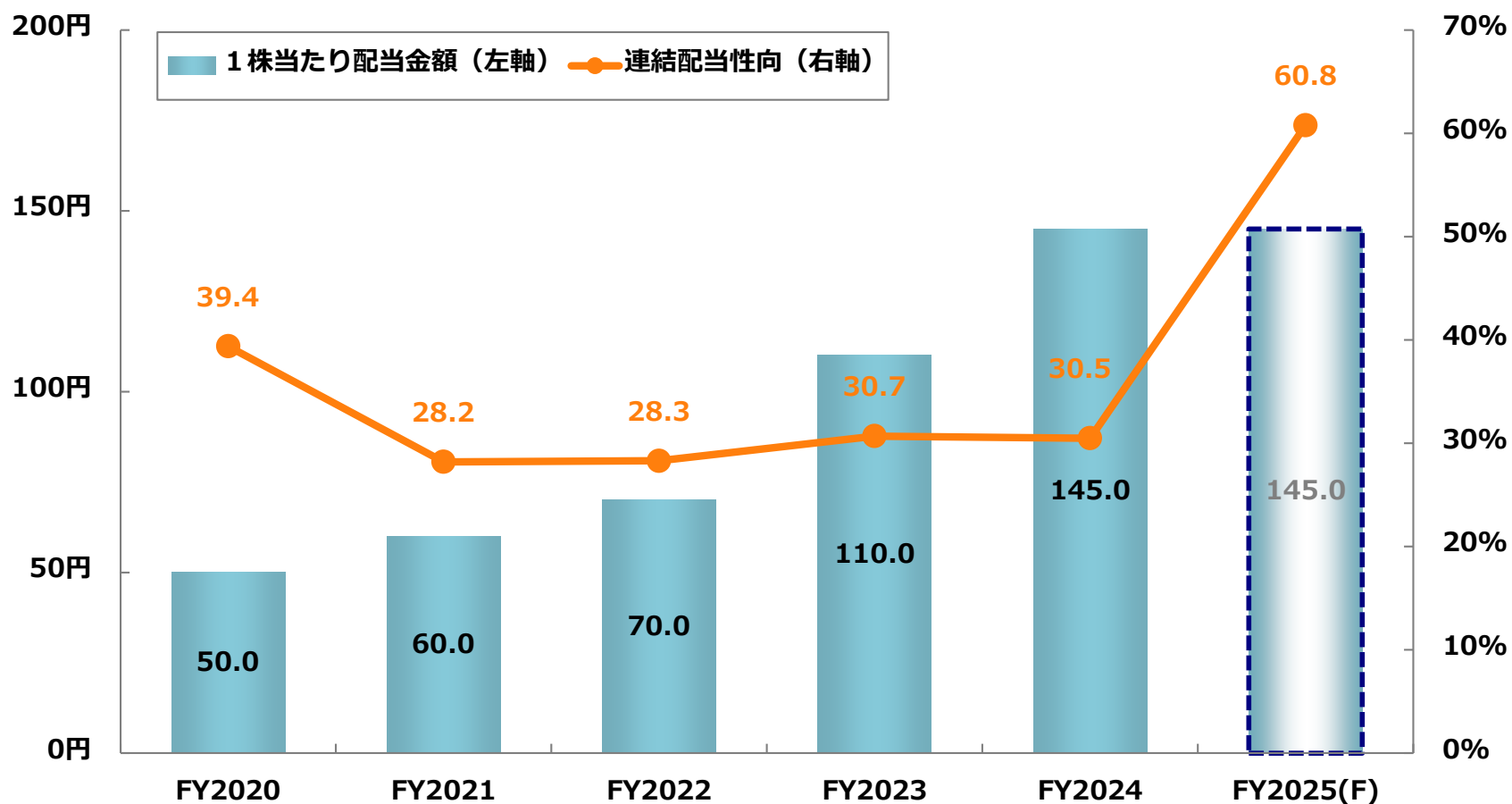
（単位：百万円）

（単位：百万円）

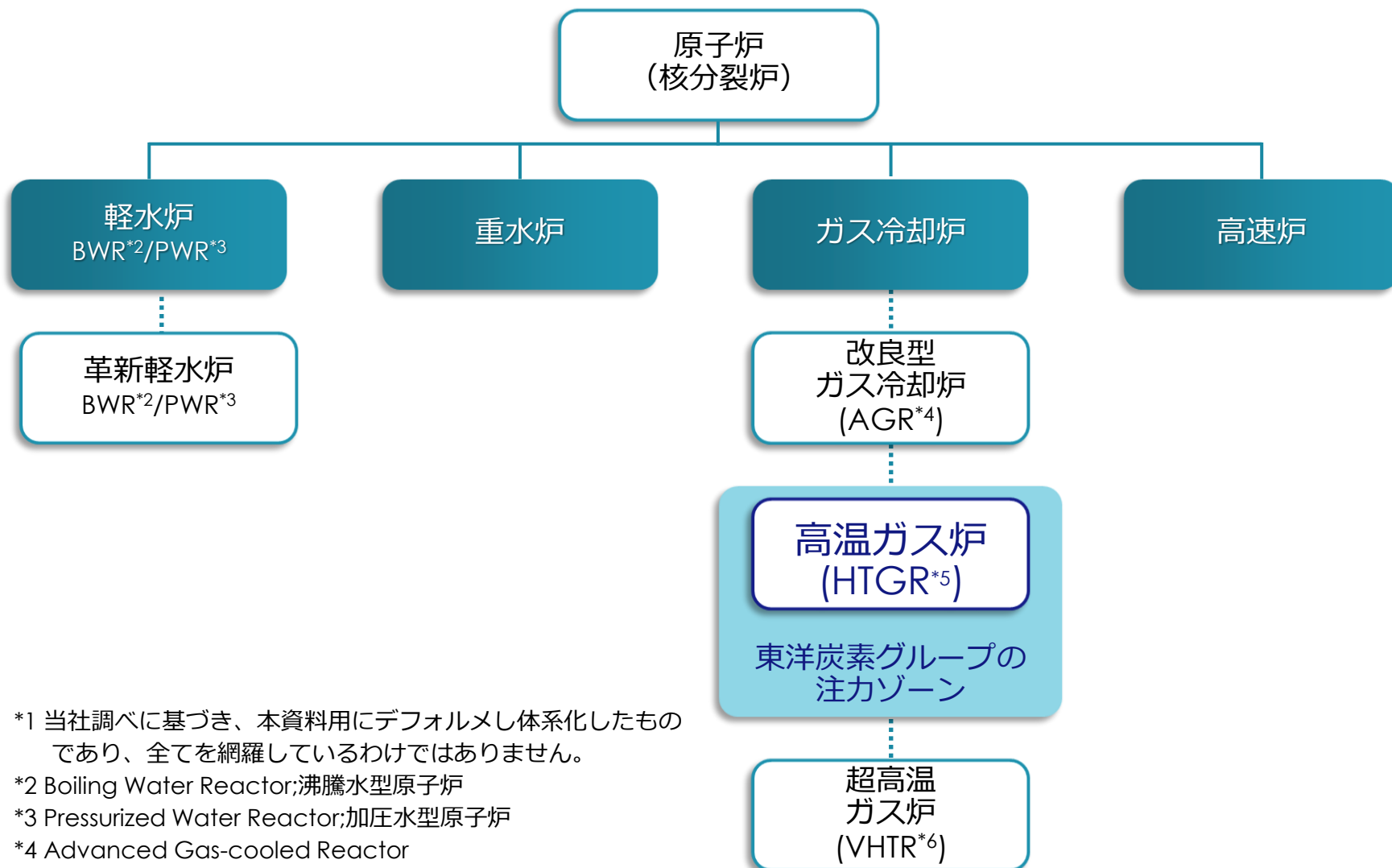


7. 株主還元

✓ FY2025計画は減収減益も、FY2024と同額を維持



8. Topics ①原子炉の種類



*1 当社調べに基づき、本資料用にデフォルメし体系化したものであり、全てを網羅しているわけではありません。

*2 Boiling Water Reactor; 沸騰水型原子炉

*3 Pressurized Water Reactor; 加圧水型原子炉

*4 Advanced Gas-cooled Reactor

*5 High Temperature Gas-cooled Reactor

*6 Very High Temperature Reactor

8. Topics ①高温ガス炉に採用される東洋炭素の黒鉛材料

高温ガス炉 の特徴

電力需要の増加に向け、複数の導入検討・計画が進行している次世代の多目的原子炉

- ・減速材に黒鉛、冷却材にヘリウムガスを使用、優れた固有の安全性を有する
- ・高温熱（～950℃）を生成
- ・冷却水が不要なため、内陸部への設置が可能
- ・出力規模によりSMR（小型モジュール炉）・MMR（超小型モジュール炉）等にも分類

▶用途：発電・化学プラント等の熱源・水素製造

東洋炭素グループ の強み

原子力用途における黒鉛材料のノウハウや照射データを蓄積し、唯一の実績を有する

- ・公的機関等との長年にわたる共同研究により、当社黒鉛材料の高い信頼性を実証
- ・等方性黒鉛材IG-110は数々の試験炉・実証炉で採用

▶採用実績：

日本	試験炉（HTTR）
中国	試験炉（HTR-10）
中国	実証炉（HTR-PM）
フランス	商業炉（HTR）

▶専任部署を設置し、複数の引き合いに対応中

唯一無二 の黒鉛材料

東洋炭素の黒鉛材料は優れた熱的・機械的特性と耐中性子照射特性等を具備

IG-110

- ・耐熱衝撃性に優れる
- ・高純度
- ・照射データ採取済
- ・長期にわたり安定した特性を維持
- ・大型材が製造可能
- ・稼動中の高温ガス炉で採用実績を有する唯一の黒鉛材料

IG-430

- ・耐熱衝撃性に優れる
- ・高純度
- ・高強度
- ・照射試験完了

✓ 人材育成方針に則り、経営幹部の育成につながる各種取り組みを推進

人材育成方針

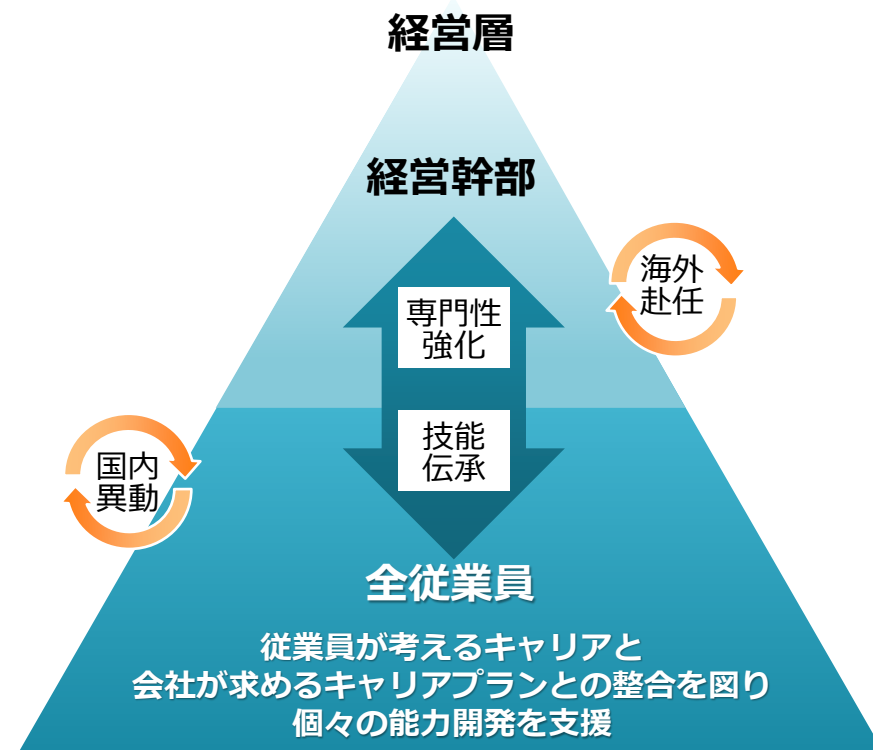
2030年経営Visionを実現するために、会社方針である「グローバル企業になる」「世のため・社会のためになる」「強い会社になる」を達成するべく、経営理念に共感し、豊かな語学力とグローバルな視野を持ち、コミュニケーション能力、リーダーシップ、問題解決能力、主体性・積極性を兼ね備えて、様々な分野で活躍できる人材の育成を行う

年齢・性別・国籍の別なく、リーダーシップと
豊富な経験・知見を有する人材を育成



知識や経験の蓄積・習得、能力の研鑽等の機会設定

- ・ 関係会社にて経営経験を積み、経営者としての視野・視座・視点を養成
- ・ 階層別・選抜型研修機会の提供・斡旋による能力開発（次世代リーダーシップ研修等）
- ・ ジョブローテーションによる多様な業務経験・知識の蓄積
- ・ 海外赴任によるグローバル人材の育成





(注) 本資料のうち、業績見通し等に記載されている将来の数値は、開示時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでいますので、実際の業績は、業況の変化などにより異なる場合があります。

<お問合せ先>

東洋炭素株式会社 広報・IR担当

TEL : 050-3097-4950(代)

E-mail : ir@toyotanso.co.jp